

編輯室內外

太陽の没することなき廣大なる領地を有し、制海力と外交術とを以て世界を自己の制壓圏内に置いて居るとの矜持を以て他に臨むこと久しかりし英國も終に其終末の時節が到来した。ヴェルサイユ條約に依つて獨逸を重壓し我事成れりと豪語したるも僅かに二十年間の幻夢に過ぎず其勢力は獨逸の爲に歐洲大陸から驅逐せられ今やドヴィ海峽も獨逸の占領する所となつて英本土の不安も獨逸に從つて甚しきを加へ漸く滅亡の近づきつゝあるを思はせらるゝに至つた、四面楚歌の聲とは今の英國である。昨は英米に親しみ今は獨伊軋軸に加はらんとする日本帝國は特に外交を刷新して獨自の途に邁進するの外また一路なき状態となつた。近衛公が新體制の叫び聲を高くあげて立ちあがつたのも愛國の至情の迸であると思ふ。

新體制下の橋田文相は教學の刷新に當つては廣く従来の諸制度施設を刷新し又科學の振興に當つては基礎的科學並に國防科學の兩面に當つて科學總動員態勢を整備するの必要を説き科學研究者技術者の養成充足、科學教育の刷新振作、科學功勞者の表彰の如き具體的方策を主張せられたる。現下の日本帝國として至極切な主張である、所謂日本科學の樹立を第一義諦とするに在るが之の實現に依つて教育勸語に昭示あらせられる所に副ひ奉ることとすべきである。

編輯室の内外

前の東京電燈會社の社長、寶塚少女劇壇の主筆者であつた小林新商工大臣の經濟政策や如何吾れ人共に知らんとする所であるが重點を物の増産に置くは勿論、公益は私益に優先されなければならぬ、これは新しき經濟道徳であり、經濟新體制の精神的基礎であらねばならぬと公益優先主義を明言してある、總ての私益事業を見捨て、商相となつた轉向振は蓋し新道徳新經濟體制の具現の第一歩であらう。吾等は小林新商相に期待する所の多きをもつのである。

今日緊迫せる國情下に居りながら國民の或者の餘りなる不浮きに驚かざる、形式と人前とを憚るの外、また獨りを慎しむの良心的心構を缺くの徒の案外多數なるを見る。人間の生活は嚴肅でなければならぬ、遊戲的生活は我日本帝國本然の性格上許すべからざることである、寔に生活の嚴肅さを深く男女の別なく職業の別なく族籍の別なく位地の別なく貧富の別なく國民全般に行き渡さなければならぬ、人の目にある塵を取り去らざれよと要求しながら己が目にある塵を見すぞしにすることが大切である。

勿れ主義、嚴罰主義、消極主義の爲に戦々兢兢々としての生活は生産擴充の障礙となり遂に民衆をして唯自己を保持するに汲々として公益を閑却し全體を顧慮せず自我中心主義に陥るの外なきに至らしむる。戦時下に利潤なしといふものに至らしむる。戦時下に依らしむるを以て治政の要諦なりと認

め教えず導かず識らしめず賦めずしてよく其の國運を振興せしめたる史實あるを知らず、實に國民を外にしての革新あるべき理なし、此點爲政治家の熟慮を要する大問題である。

歴史上國家滅亡の跡は知るも今日の尨に諸威、和蘭、白耳義、丁抹、佛蘭西等相次いで亡び行くのを見せつけられるのは有爲轉變の世の中とはいへ實に夢に夢見る心地がす唯天祐と奇蹟とを之れ頼みとする儂なきをいたく感ぜしめらる。徒らに無知の義憤に走る勿れ吾等は天譴を畏れ自肅自慎自戒して皇恩に報せん耳。(八、二五洮)

定價 一部 五十錢
一ケ年分 金六圓

發行所 東京市麹町區霞關一丁目内務省内
社団法人 道路改良會
電話銀座(57)〇四二七

發行者 東京市世田谷區代田壹丁目七八〇
編輯者 小島 效

印刷所 東京市小石川區諏訪町五六
印刷者 常馨印刷所 奈良直一